

評価対象業務従事者経歴書

案件名	年度		国		写  真  (5cm×4cm)	
担当業務						
氏名			取得学位・資格 (登録番号・取得年月)			
(ローマ字)			※ 技術士等は部門も明記して下さい。			
生年月日	年	月	日生 ( 歳)			
本籍	都道府県					
外国語	取得資格	自己申告			著書・研究論文等	健康診断結果
	資格名	外国語名	読む	書く	話す	聞く
	年	月	取得			
学歴		校名		学部・学科・専攻等		
	高等学校					年 月卒業・中退
	短大等					年 月卒業・中退
	大学					年 月卒業・中退
	大学院					年 月卒業・中退
現職	採用年月	所属先		部・課、職位	職務内容	
	雇用保険	確認(受理)通知年月日【 】			被保険者番号【 】	
	健康保険	事業所番号【 】			事業所名略称【 】	
職歴	被保険者記号-番号【 ー 】	交付日【 年 月 日】		保険者番号【 】		
	事業所名称【 】	保険者名称【 】				
関連する業務経験 (調査、PPP事業等本調査に関連するもの。国内外を問わないが、海外経験を高く評価する)	期間(年月～年月)	所属先		部・課、職位	職務内容	
その他の海外渡航歴	渡航先	期間(年月から何ヵ月)	目的(留学先等)		内容	

注) 現職の欄では、雇用保険あるいは健康保険のいずれかについて明記する。

## 1.語学能力の基準

(ランク)

S- 正確かつ流暢に高度な会話ができる。また、会議でのディスカッション及び技術レポートの作成をはじめ自己の専門分野はもちろんとして、他の分野についても正確な表現と理解が可能である。

A- 通常の会話と自己の専門分野の表現と理解はもちろんとして、技術レポートの作成・解読も可能である。ただし、会議でのヒアリングにはやや難がある。

B- 通常の会話と自己の専門分野の表現と理解は、十分とは言えないが可能である。また、技術レポートの作成・解読は、不十分ながら可能である。

C- 実用の域ではないが、通常の会話や技術レポートの作成・解読は、辞書を用いて辛うじて可能である。

## 2. 語学能力・資格の認定等について

英語、フランス語、スペイン語の語学能力については、下記の表に示す資格に基づき評価を行います(これらに準ずる資格も評価対象としますが、可能な限り表に記載のある資格を取得してください)。主要な資格と評価基準(目安)の関係は下記の表の通りです。その他の言語については、保有する資格、自己申告のランク等に基づき適宜評価を行います。応募者は、いずれの言語についても、「外国語」欄に取得資格、自己申告を記載してください。

### 【英語】

評価の基準 認定資格・認定機関	S	A	B	C
TOEIC 国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会	860以上	730以上	640以上	500以上
TOEFL 国際教育交換協議会東京事務所 ( )はCBTスコア、< >はiBTスコア	600以上 (250以上) <100以上>	550以上 (213以上) <79以上>	500以上 (173以上) <61以上>	470以上 (150以上) <52以上>
実用英語技能検定(英検) (財)日本英語検定協会	1級	準1級	—	2級
国連英検 日本国際連合協会	A級以上	B級	—	C級
ビジネス英検(廃止済)* (財)日本英語検定協会	グレードA	グレードB	—	グレードC
通訳案内業(案内士)試験	合格	—	—	—

\* 廃止済の資格については、可能な限り早い時期に表に記載のある他の資格を取得してください。

### 【フランス語】

評価の基準 認定資格・認定機関	S	A	B	C
実用フランス語技能検定試験 (仏検) (財)フランス語教育振興協会	1級	準1級	2級	準2級
フランス語資格試験(DELF・DALF)	DALF C1以上	DELF B2	DELF B1	DELF A2
仏語能力認定試験(TEF) パリ商工会議所	5以上	4以上	3以上	2以上
仏文部省認定仏語能力テスト (TCF) 教育研究国際センター	5以上	4以上	3以上	2以上
通訳案内業(案内士)試験	合格	—	—	—

【スペイン語】

評価の基準 認定資格・認定機関	S	A	B	C
スペイン語技能検定(西検) スペイン語技能検定委員会	1級	2級	3級	4級
外国語としてのスペイン語検定 試験(DELE) セルバンテス文化センター ( )は2009年以前の資格保持者	上級及び最上級 (上級)	中上級 (中級)	中級 (初級)	初級
通訳案内業(案内士)試験	合格	—	—	—

【他の言語におけるランクの目安】

ランク	具体的レベル
S	極めて高いコミュニケーション能力を有する。  (国際会議等での高度な議論、幅広い分野の専門書の理解、技術レポートの作成が可能。)
A	高いコミュニケーション能力を有する。  (会議等での議論、専門・専門外の分野の専門書の理解、技術レポートの作成が可能。)
B	担当分野において十分なコミュニケーション能力を有する。  (担当分野に関する議論、担当分野の専門書の理解、技術レポートの作成が可能。)
C	業務上、必要最低限のコミュニケーション能力を有する。  (通常の会話が可能。また、辞書を用いれば専門書の理解、技術レポートの作成が辛うじて可能。)